

2 絶滅危惧種の地域への拡大を目指して

～オオルリシジミを市民の手で郷土に復活～



岩原の自然と文化を守り育てる会

長野県 安曇野市



1 社会資本の概要

北アルプス常念岳の山麓に位置する「国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区里山文化ゾーン」には、オオルリシジミ（絶滅危惧IA類）を保護する目的で園内に「サンクチャリ」が設置されました。安曇野オオルリシジミ保護対策会議に参加する市民・研究者・市民団体・自然保護団体・行政機関による保護活動が地域に浸透しつつあります。

「岩原の自然と文化を守り育てる会」では、サンクチャリに奇跡的に守られたオオルリシジミをかつての地域の自然に戻す活動を続けています。岩原区の集落内ではオオルリシジミの食草クララが住民の手で植えられ、繁茂する風景が見られるようになりました。



オオルリシジミ(チョウ)



国営アルプスあづみの公園 里山文化ゾーン サンクチャリ (オオルリシジミ保護区)



岩原区集落内の 食草クララの植栽

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

「岩原の自然と文化を守り育てる会」は、地域のタカラを見つめ直し、次世代に引き継ぐことを目指して地域の大人たち50人が集まり結成されました。

岩原のタカラのひとつであるオオルリシジミについて、研究者から学び、実際にサンクチャリでチョウの舞う姿を確かめ、食草クララを庭や畑に植え育て、見守り、もっと多くの人に知らせ、オオルリシジミの保護のため市民参加の輪を広げています。みんなで

実感しながら活動することが楽しく、会活動の原動力となっています。近隣地区、小中学校の児童生徒、安曇野市役所からの反響もあり、これもまた地域みんながやりがいを感じています。イベントは子孫を誘って参加します。先人から受け継いだ地域のタカラをみんなで思い出し、もっと知りたい気持ちがこみ上げます。



公民館でみんなが集まった学習会



オオルリシジミは岩原で生きている！ サンクチャリ自然観察会



市民へのクララ苗配布会 クララを植えるため市民が集う

3 活動の成果や波及効果等

安曇野市では、オオルリシジミの市文化財指定に向けての取り組みが進められています。

多くの同好者・保護団体とともに、かつての安曇平に生息していたオオルリシジミが復活する日を夢見て、これからも地道な活動に取り組んでいきます。

オオルリシジミの活動を通じて、国営アルプスあづみの公園と岩原区内を巡る自然・歴史・文化を訪ねるコース作りの計画を新たな会の活動として開始しました。岩原区住民の中に仲間の輪が瞬く間に広がりました。オオルリシジミに限らず、次世代に残したい地域の魅力を伝える活動が始まっています。



新たに岩原区内でも オオルリシジミが チョウに羽化した



北アルプスの麓に広がる 安曇平はかつての オオルリシジミ生息域



これぞ安曇野 岩原のタカラマップ



地域の子供たちに オオルリシジミに係る 機会を作って行く

喜びの声



受賞者
岩原の自然と文化を
守り育てる会
代表
百瀬 新治

コメント

小さな有志の会でコツコツ取り組んできたことが評価され、会員一同何よりもうれしく思っています。私たちが暮らす北アルプス山麓の地で、昆虫も含めあらゆる生物が支え合って生きることこそが、将来に及んで安全で快適な環境を維持していく基本だと確信しています。今回の受賞を大いなる励みとして、みんなで元気よく楽しく活動を継続して行きます。

活動の内容

- 地域での学習会「オオルリシジミ、岩原のタカラの学習会」
- 地域内に食草クララを植栽・育てる活動
- 啓蒙活動とパトロール
- 国営アルプスあづみの公園・安曇野市・安曇野オオルリシジミ保護対策会議等関係機関との協働
- 食草クララ苗を市民に配布する活動
- 岩原のタカラを次世代に伝える活動

活動の経歴

- 平成26年 岩原の自然と文化を守り育てる会発足 学習会・食草クララを会員庭に植える活動開始
- 平成27年～国営公園オオルリシジミイベント協力 安曇野オオルリシジミ保護対策会議参加
- 令和元年～地域内に食草クララの苗配布
- 令和3年 手づくり郷土賞(一般部門)受賞

- 所在地** 長野県安曇野市堀金烏川岩原
- 活動主体及び連絡先** 岩原の自然と文化を守り育てる会
- 対象となる社会資本** 国営アルプスあづみの公園を中心とする安曇野市内のオオルリシジミ生息地・食草クララ植栽地

